

## 東京立石神井特別支援校（2年目）

【校長】 柳澤 由香  
【生徒数】 232名  
【学級数】 47学級



次の取組へ

### 【課題・改善】

・運動・生活習慣アンケートの全校実施が2年目となり、本校における現状が徐々に見えてきたと同時に改善、向上に向けた家庭の取り組みは、低迷している。要因としては、活用できる地域資源に限りがあること。また、屋外へ子どもを連れ出す困難さが見られる。  
⇒一人1台端末の活用をより具体化し、運動の機会を増やす取り組みを引き続き行う共に地域の情報発信を充実させていく。

#### 目標

- ・自宅において一回60分程度の運動やスポーツをする子供（50%程度）
- ・適正体重の児童・生徒の割合を増やす。（40%以上）

### 【成果】

#### ○一人1台端末の活用の推進

・オリジナルエクササイズ動画の定着、スポーツアプリの活用場面が浸透したことで、学校での活動場面や休日の余暇として身体を動かす児童・生徒が増えた。

#### ○スポーツ体験からの学び

・アスリートと直接交流し、その競技を体験することで、一人一人の興味関心が向上した。また、教員は、指導のポイントを学ぶことができた。

#### ○運動・生活習慣アンケートからの取り組み

・健康改善の要点について、外部専門家からアドバイスを頂き記事にし、全校配信を実施した。

### 【実態・課題】

#### OR4 運動・生活習慣アンケート結果から

・小～中学部にかけて低身長傾向がある中、体重に関しては全国平均とほぼ同等という結果からやや肥満傾向にあると考える。  
⇒日頃から心掛けることができる食生活に関する記事を作成し全校配布をする。

・地域には、障害者を受け入れ可能なスポーツクラブ等が複数あるが利用促進にはなかなか繋がっていない状況が見られる。  
⇒アクセス方法や利用方法などより詳しい情報提供が必要と考える。

### 【取組】

#### ○授業（保健体育、情報）での取組

- ・一人1台端末を活用した自宅でできるエクササイズ動画の配信
- ・スポーツアプリの活用

#### ○総合的な学習の時間におけるスポーツ体験

- ・オリンピックとの交流会（12月）
- ・パラリピアンとのボッチャ交流会（2月）

#### ○運動・生活習慣アンケートの実施（継続）

- ・全校を対象に家庭での運動実施状況把握年2回（6月、12月）

## 【取組（詳細）】

### ○一人1台端末の活用

「アクティブアーケード」という運動アプリを全児童・生徒の端末にインストールし、自宅でも運動ができる機会を増やす取り組みを実施した。屋外で運動することが難しい児童・生徒も意欲的に取り組むことができた。



休み時間や天候の悪い日など、省スペースで意欲的に体を動かす様子

### ○若手教員による実践指導



外部専門家のアドバイスを受けながらの実践指導の様子

今年度より元ボッチャ日本代表監督の村上氏に外部専門家として年10日間、授業アドバイスに入っただき、若手教員を中心に支援方法や教材の開発、改善の助言をいただきながら、授業力向上を進めている。小学部低学年から始める健康教育の助言を受け、教員一人一人の意識が変わってきた。

### ○長期休業中における健康教育に関する教員研修

長期休業中における研修の一環として、今年度も日本ボッチャ協会より指導者を招き、本校全職員及び今回は、近隣特別支援学校へも研修案内を呼び掛け、指導講習会を実施した。今回は、ボッチャ指導はもちろんのこと日々の健康教育、また関心・意欲を引き出すコーチングの観点も踏まえ講師から様々なことを学び、日頃の指導に生かす研修となった。



実践指導に向けた研修の様子